

千代田区立富士見小学校における地域、保護者による ゲストティーチャーリレーの取組み

A consideration of the guest teacher relay by neighbors and guardians
in the Chiyoda-ku Ward Fujimi elementary school

坂口 次郎
Jiro Sakaguchi

大妻女子大学人間生活文化研究所
Institute of Human Culture Studies, Otsuma Women's University

キーワード：ゲストティーチャー，地域連携，地域コミュニティ
Key words：Guest teacher, Regional cooperation, Local community

1. 背景と目的

コロナ禍により，千代田区立富士見小学校（以下、「当校」という。）においては校外学習や学校公開，地域交流イベント等が制限され，児童たちと地域，保護者のつながりが希薄となり，学校の孤立化が懸念された．本取組みは，地域（主に学区）の多様な人材を活かし，地域や保護者がゲストティーチャー（以下、「GT」と言う。）として児童への“出前授業”を行うことを通して，学校が進める地域学習やキャリア教育に貢献することである．また，継続することにより学校を中心とした地域コミュニティづくりに寄与することも目的に 2020 年度から試行（年間 1 回実施）を始めたものである．

2. 取組みの概要

（1）2020～2021 年度の取組み（講義形式中心）

コロナ感染が急拡大した 2020 年当初以降，学校から児童が外部に出ることができなくなったことを受け，それならば通常の授業の形態の中で逆に地域から学校に入り込む，という仕組みを検討した．低学年（1～3 年生）は「地域学習」をテーマに，地域の人々が中心となり地元のお祭りや店舗，区役所の仕事などを紹介した．また高学年（4～6 年生）は「キャリア教育」をテーマに，保護者が中心となり，各々の職業について説明することとした．当該 GT 授業は，土曜の特別授業として学校側に充てていただいた．また，GT の選出については，各学年の教科の内容を鑑み PTA で選出・依頼した．なお，本取組みは 2021 年 6 月 12（土）も GT をリレー形

式にて入れ替えたうえで同様に実施した．

（2）2022 年度の取組み（体験形式の追加）

2022 年度には当校に特別支援学級が設置されることとなり，これをきっかけに，これまで 1 日の講義形式だった授業に加え，数か月間時間を使う 2 つの体験型授業も試行的に取り入れた．（表 1）

表 1. 2023. 6. 11（土）に実施した GT 授業の概要

学年	クラス数 (人数)	テーマ	ゲストティーチャー	授業内容
1	2 (71)	私の住むまち	マルマツ薬局 【地域のお店】	【地域のお話】 学校周辺のみのお話(神社、駅界隈)
			部活動代表 【現役保護者】	【学校の部活動紹介】 野球部とサッカー部の紹介と体験入部
2	3 (99)	どん	「房洲っこ」(日本料理) 【地域のお店】	【地域のお店の逆訪問】 ・お店の始まり、歴史 ・材料は何？どこから来るの？ ・工夫しているところ、大変なところは？
			「lonnme bouquet」(花屋) 【地域のお店】	【地域のお店の逆訪問】 ・お店の始まり、歴史 ・材料は何？どこから来るの？ ・工夫しているところ、大変なところは？
3	3 (84)	な	「フロレスト」(出版印刷) 【地域のお店】	【地域のお店の逆訪問】 ・お店の始まり、歴史 ・材料は何？どこから来るの？ ・工夫しているところ、大変なところは？
			【地域のお店】	【地域のお店の逆訪問】 ・お店の始まり、歴史 ・材料は何？どこから来るの？ ・工夫しているところ、大変なところは？
4	3 (84)	お	築土神社氏子青年会 【卒業生保護者】	【地域の氏神社とお祭り】築土神社の歴史とお祭り／参拝作法の意味と体験
			千代田区富士見出張所 【出張所職員】	【出張所の役割と区の歴史】出張所の仕事や地域の歴史、名所など
5	2 (81)	事	弁護士 【現役保護者】	【弁護士さんのお仕事】人に寄り添う大切さ、人の役に立ちたいなど
			消防庁 【現役保護者】	【消防音楽隊の仕事】演奏をしながら防災・避難訓練・火災予防をPR
6	2 (88)	知	書道教室 【現役保護者】	【書道家のお仕事】作品展のお話や実際に色紙に文字を書く体験授業
			古書店 【現役保護者】	【古書店の仕事】神保町の歴史、古書店ならではの大変さ、江戸時代の実物本
6	2 (88)	り	Tシャツメーカー 【お付き合いの長い業者さん】	【Tシャツ作成】Tシャツ作成の材料、工程、かわる人たちについて(※)
			特許庁 【卒業生保護者】	【特許庁について】知的財産権やスタートアップをテーマに発明などについて
な	体	験	子ども園園長 【併設の子ども園園長】	【園長先生の仕事】未来の社会(society5.0)や子供の権利条約など
			ランドスケープ設計 【卒業生保護者】	【緑のカーテンで地域づくり】緑のカーテン育成を通して地域の景色をつくる(※)

(※)は期間をかけた体験型授業

①特別支援学級における緑のカーテンづくり

特別支援学級においては、5～7月（夏休み前まで）でゴーヤによる緑のカーテンづくりに取り組んだ。手作業の導入と水やり等日常的な世話が必要な要素を取り入れ、これまで世話をされる立場から世話する立場に変わることによって心の成長を意図した（写真1）。生育途中で葉や花の観察（スケッチ）会（6月）や収穫祭（7月）を設け、多様な経験を得られる内容とした。また緑のカーテンの設置場所を校門の前方とし地域の景観向上に寄与することも意図した。当該設置場所は地域の人が日常的に目にする場所であり、特別支援学級の活動が学校内に留まることなく地域に表出することになる。



写真1. 特別支援学級による緑のカーテンづくりでのプランターへの植え付けの様子（5月）

②5年生における開校30周年記念Tシャツデザインコンペ

当校が2023年度に開校30周年を迎えるにあたり、5年生による周年を祝う記念Tシャツのデザインコンペを実施した。毎年PTAでは定型のデザインTシャツを作成しているが、2023年度は周年記念として5年生のデザインコンペ選出案を取り入れることで連携するものである。5年生は、6月のGT授業においてTシャツ作成会社からTシャツの作成工程や材料、作成に関わる人等の講義を受けた。それを受け、10月～翌年2月の総合教科の時間を活用し、児童がTシャツ作成工程におけるデザイナー役割を担って実際のTシャツ作成に関わることとした。デザイン案作成に当たっては、5～6人のグループワークにより案作成を行った。その後タブレット等を活用したデザインコンペ等のプレゼンを行い、一次選考として各クラスから2案（計4案）を絞った（12月）。最終

選考には一次選考に漏れたグループも協力しデザインのブラッシュアップを行い、最終プレゼンを行った（2月）。案の選考に当たっては一次、最終ともに児童たちの挙手により選定した。上記のグループワークやプレゼンを経た案の選考は実社会においても一般的に用いられるプロセスであり、GT授業を活用して児童が実社会の一端を体験することを意図した取り組みである。（写真2）



写真2. 5年生によるTシャツデザインコンペ最終選考の様子（2月）

3. アンケート調査の結果

(1) 2020～2021年度の結果

GT授業（2020年）の実施後、記述式にてアンケート調査を行った。対象は各クラス担任の先生方16人とGT12人。質問項目は、先生方には①当日の児童の様子、②企画の感想、③企画の継続と課題について、GTには①授業の感想、②、③は先生方と同様の項目とした。

先生方へのアンケートのまとめとして、①児童は自分たちの“ホーム”でリラックスしながらも興味深く、積極的に、楽しみながら参加していた。②先生方だけでは伝えられない専門的な内容を直接聞くことができ、地域への関心、キャリア教育にも役立った。③先生方全員（16/16人）が企画の継続を希望し、GTとの事前の打合せを更に密にして教科の中に位置付けていくことで教育的価値を高めていきたい、という意向が確認できた。

GTへのアンケートのまとめとして、①児童との授業を楽しむとともに、自分を省みる貴重な機会となった。②学校、地域、保護者が連携し、児童が普段聞けない話を聞けるユニークで素晴らしい企画と感じている。③継続することで児童が多様な話を聞くことができ、またGT同士の交流が増

えることで地域の活性化にもつながる、と感じていることが分かった。

2021年度のGT授業実施後にも同様のアンケート調査を行った。概ね前年度の結果と同様の内容となったが、特に先生方の中には「イベントとしての一過性のものでなく教科指導と関連付けてGT授業を聞いた」等の記載があった。これは1年目の経験を活かし、GT授業と各学年の教科との事前のすり合わせを行った結果が出たものと思われる。また、GTへのアンケートにおいては、GT同士の横のつながりをつくることで地域連携を図ろうとする意見や、地域への愛着を感じる意見があり、学校や児童への効果だけでなく地域への効果も感じていることが伺えた。

(2) 2022年度の結果

2022年度のGT授業後にも記述式によるアンケート調査を実施し評価の数値化を行った。

対象は担任の先生方で13人からの回答を得た。質問項目は、①当日の児童の様子、②GT企画の感想、③GTを地域・保護者で担うことについての感想、④GT企画の継続について、⑤GT授業の効果について。①～④は5段階評価、⑤は意見を記述する形式とした。表2は①～④の質問を5段階にて評価した結果をまとめたものである。質問①～④ともに「とてもいい」、「いい」と評価しており、企画の満足度は高く、企画の継続性についても肯定的と言え、2020、2021年度のアンケート結果を裏付ける結果となった。④企画の継続に関する質問において、「とてもそう思う」ではなく「そう思う」を23%（3人/13人）選択しているが、選択肢の理由として、運営の負担を配慮する意見が複数見られ、その結果が表れたものと思われる。⑤GT授業の効果について、児童への効果として、低学年では、実際に地域のお店やお祭りをやっている人からの話を聞くことで「地域への愛着がわく」効果を指摘する意見が複数あった。高学年では、「児童は漠然と“将来〇〇になりたい”と感じているが、実際にその職についている方からのお話を聞くことはこの上ない教育効果があると思う。また自身に関心がなかった職業についても選択肢の一つとして知るとは非常に意味のあること」というキャリア教育に関する評価も複数あった。また教員への効果として、「教員ができない内容の授業のため、教員自身もその内容について勉強する機会が持てて良かった」という授業の深まりに関する指摘や「地域の方々とのコミュニケーションが

とれて良かった」という、地域とのコミュニケーション効果に関する指摘もあった。

表2. 先生方へのアンケート結果（2022年度）

	①とてもいい	②いい	③どちらでもない	④あまりよくない	⑤よくない
①児童の様子・反応	77%	23%	0	0	0
②企画の内容	92%	8%	0	0	0
③GTを地域で担う	92%	8%	0	0	0
	①とてもそう思う	②そう思う	③どちらでもない	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
④継続した方がいいか	77%	23%	0	0	0

同様のアンケートをGTに対しても実施し、12人から回答を得た。質問項目は①GTをやってよかったか、②～⑤については先生方と同様の項目とした（表3）。質問①、②の満足度に関する項目については、「とてもいい（よかった）」、「いい（よかった）」と評価しており、GTにおいても2020、2021年度のアンケートを裏付ける結果となった。③GTを地域で担うことについて、「どちらでもない」を選択した8%（1人）がいたが、その理由として、児童への効果を考えるならば地域人材だけにこだわらなくてもいいのではないかと、いう内容だった。④企画の継続についても肯定的な評価となった。⑤GT授業の効果については、児童への効果として「将来なりたい職業のについて考えるきっかけづくり」や「可能性の幅を広げられる」という児童の職業選択に関する指摘があった。また地域への効果として「学校や児童とのコミュニケーションをとる貴重な機会」、「学校、子供たちが身近になり地域内交流に役立つ」、「GT授業が刺激となり活性化される」等の地域コミュニケーションや活性化を指摘する意見も複数あった。また、GT自身にとっても「子供たちだけでなく大人も勉強になる」という効果の指摘もあった。

表3. GTへのアンケート結果（2022年度）

	①とてもいい	②いい	③どちらでもない	④あまりよくない	⑤よくない
①GTをやったよかったか	83%	17%	0	0	0
②企画の内容	92%	8%	0	0	0
③GTを地域で担う	67%	25%	8%	0	0
	①とてもそう思う	②そう思う	③どちらでもない	④あまりそう思わない	⑤そう思わない
④継続した方がいいか	83%	17%	0	0	0

4. 考察

2020年度から開始した地域によるGT授業の取組みについて、これまでのアンケート調査等をもとにして考察を述べる。

(1) 児童への効果

GT授業を通して、近所の大人から職業人としてのリアリティある話を聞き、通常の授業では知り得ない実社会の一面を知ることができたものと思われる。また、GTとその仕事に自分を重ね合わせながら、地域への愛着や親近感を感じることができたと思われる。コロナ禍で他者との関係性が薄くなっている今日、低学年児童にとっては家族と学校だけではなく、地域を知り関心を覚えたりするきっかけになったものと思われる。また高学年の児童にとっても親以外の地域の大人から親以外の仕事の話聞くことで新しい将来イメージを得るきっかけになるものと思われる。

(2) 学校・先生方への効果

学校・先生方にとっても専門性の面から先生方が話せない内容の授業となるため、教科の深まりが出るものと思われる。また地域人材との関係性においても、これまでのPTA活動や運動会等の行事での付き合いのレベルから一歩踏み込んだ学校の教科に関連する関連性が出てくるため、より深い関係性や交流ができるものと思われる。

(3) GTへの効果

ボランティアかつ準備に時間と労力を要したにもかかわらず、参加したGTは満足感を得ていた。児童の純粹さに触れ、学校や地域に貢献できた喜びや学校を中心とした地域連携の一体感を感じ、自分が住むまちへの愛着や誇りを得られたこと等が要因と思われる。GTへのアンケートの回答の中に、GTの横のつながりを求めるものがあつた。特に仕事を持つ父親にとっては、これまでPTA活動や学校行事等に深くかかわる機会が少なかったが、仕事を持っているからこそ学校に関わるきっかけができたことで学校との深く新しい関係性が作れたものと思われる。また、GT授業は児童を対象にし地域、保護者が一体となって取り組むことから、これまで地域との関係や関心が薄かった父親が地域住民との関係や地域での居場所を得るきっかけとなることが期待できる。また、GTへのアンケートの回答の中に「自らを省みる貴重な機会だった」と捉えている回答が複数あつた。GT授業を通して

自分や自分の職業を振り返るきっかけとなり、自らも勉強の機会を得ているものと思われる。

(4) 地域への効果

GTを小学校区を中心とした地域人材で担い、リレー形式で繰り返していくことで、これまで学校に関連や関心が薄かった保護者等が地域が増えていくことになる。また協力して取り組んだ地元の住民とも顔見知りの関係になることで、学校を中心とした地域コミュニケーションに寄与するものと思われる。GTのアンケートの中には「地域の大人で学校を盛り上げる取組みで地域が更に好きになった」という回答もあり、シビックプライドにつながるきっかけが伺える。また「GT同士の横のつながりができることで地域防犯につながる」という指摘もあり、副次的な効果も考えられる。

(5) 公立学校の地域連携モデルとしての可能性

公立学校は今後「学校・家庭・社会の連携」を目指し、新しい公立学校の位相として国私立進学受験校と比較してより地域志向性を指向するという指摘がある[1]。GT授業を地域で担う本取組みは、広く広域から児童を集める私立学校と比較すると、地域に根差す公立学校の特徴を活かした取組みだと思われ、地域のポテンシャルを活用した新しい地域連携のモデルの一つと考えられる。

なお、本取組みは2021年キッズデザイン賞を受賞した。

(<https://kidsdesignaward.jp/constitution/report/15.html>)

5. この助成による発表等

本取組みについて、こども環境学会2022年大会(東京)におけるポスターセッションにおいて現地発表を行った。

参考文献

[1]佐藤晴雄. 2002[学校を変える 地域が変わる—相互参画による学校・家庭・地域連携の進め方], 教育出版, 181p.

付記

本取組みは大妻女子大学人間生活文化研究所の研究助成(R2201)「千代田区立富士見小学校における地域、保護者によるゲストティーチャーリレーの取組み」を受けたものです。